

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3577800398		
法人名	特定非営利活動法人宅老所あいの家		
事業所名	グループホームあいの家		
所在地	下関市豊浦町大字宇賀7378-19		
自己評価作成日	平成30年度5月31日	評価結果市町受理日	令和2年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和 1年6月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

此処は顔見知りの人がいって安全で安心して生活が出来るような環境作りをする。  
季節感を出した食事作り、おやつ作りをしている。  
季節の花が玄関から居間食堂といつも飾ってある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

差し入れの野菜や事業所の菜園で収穫された野菜など、旬の食材を使用して、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者に食事を楽しんでもらうために、形態の工夫や調理方法を工夫されていたり、利用者の食事ペースに合わせた介助方法や介助のタイミングなど、利用者の思いに寄り添われ、一人ひとりに応じた支援をしておられます。地元の郵便局に利用者の作成されたちぎり絵の作品を、10年以上の間継続して掲示してもらわれ、利用者は地元の人と交流されるなど、利用者が地域とつながり、活躍できるように支援されています。事業所は、開設前から地域とのなじみのある住宅地域内にあり、隣近所とのつきあいも自然と行われております。2か月に1回、地域の消防団の来訪があり、防災対策の協力体制も築かれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関に掲示してある。職員の名札にも記されていて、全職員が目標に向かい共有している。 月、水、金その日の勤務者が朝礼で唱和している。 普通の生活を大切に、ゆっくりと過ごしていただけるよう。いつもその方の気持ちにより添うことを心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、玄関に掲示している。月、水、金曜日の朝礼で唱和して共有に努め、日常の利用者との関わりの中で、言葉かけや態度を振り返り、日々のケアを通して理念を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来理想とするグループホームの利用者の状況と大きくかけ離れているため、項目2つについては実現困難であると思う。	事業所は、自治会に加入している。事業所は、開設前から地域とのなじみのある住宅地域内にある。利用者は地元の神社の祭りやハートフルクリスマス、公園の桜見物に出かけて、地域の人と交流している。地元の郵便局に利用者合同で作成した壁面用のちぎり絵の作品を、10年以上の間、継続して掲示してもらい、局員や地元の人との顔馴染みになっている。ボランティア(月2回のアロママッサージ、年1回のうどんづくり)の来訪がある。2ヶ月に1回、地元消防団の来訪があり、防災予防の声かけがある。利用者は事業所の前庭を行き交う地元の人と挨拶を交わしている。季節の野菜や花の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回郵便局に利用者制作のちぎり絵を掲示している。 今回はどんな作品かと期待されている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で意義について話し合い。 いろいろ意見が出るようになり改善につながっている。	評価の意義について職員間での話し合いはなく、代表者が日常支援の中で職員の意見を聞き、自己評価を作成している。前回の評価結果を受けて、評価への取り組み、全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施、地域との協力体制の構築などの目標達成計画を作成しているが、評価を活かしての具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による自己評価の取り組み</li> <li>・評価結果の活用</li> </ul>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議をしている。 自治会長、市民生活課課長、包括支援センター、駐在、地域住民、家族、利用者、職員で報告、状況、意見交換をして、サービス向上に活かすように努めている。	年6回開催し、家族代表や自治会長、駐在所、第三者苦情相談員などのメンバーの参加を得て、利用者状況やサービス提供の報告、地域状況、事故報告等の話し合いをしている。駐在所や民生委員からは地域の情報の提供があり、事業所に関する意見はサービスの向上に活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要なときには連絡をする。	市担当者とは、運営推進会議時や電話で相談し助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、情報交換をして連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員拘束しないケアを正しく理解、共有し、自己の介護に取り組んでいる。 新しい職員にはその都度説明等を行っているがなかなか正確に理解しにくいようなので年間を通してカンファレンスの中で1、2回説明と検討会をする予定である。	職員は身体拘束の内容と弊害について内部研修で学び、理解をしている他、日常の支援の中で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。玄関は日中は施錠をせず、外に出たい利用者には職員と一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で虐待防止に努めている。 身体的、精神的虐待防止、特に言葉による虐待の防止に努め、叱らず、まずは受け入れることを実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば、学ぶように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解してもらっている。契約については話し合い、納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情箱は設置し、第三者委員も選任し、苦情処理の手続定めている。利用者家族の方にもそのことは伝えている。玄関に苦情箱を設置している。気軽に意見が出せるように工夫している。	相談、苦情受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、月1回の事業所からの便りやお知らせ、請求書送付時、電話等で要望や意見を聞く機会を設けている。ケアに関する意見や要望があれば、「介護日誌」に記載し、職員間で共有して対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の職員の会議で意見を聴く機会を設けている。話しやすい雰囲気作りに努めている。	代表者や管理者は必要に応じて、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員からは介護用品の使用方法、朝食の内容、勤務体制についての意見や提案があり、話し合い、日常のサービスに活かしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が働き甲斐のある働きやすい環境、勤務時間の希望を聞き入れた職場づくりに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望に応じ、勤務の一環として受講の機会を提供している。また資料等は常時閲覧できるようにしている。事業所内で勉強会など行い働きながら知識と技術を学べるようにしている。	外部研修は職員に情報を伝え、経験や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供しているが、今年度の参加者はいない。内部研修は年2回(不適切ケア、ターミナルを終えて)管理者とリーダーが講師となり実施している。新人研修は日々の業務の中で管理者や先輩職員の指導で、働きながら学べるように支援している。	・外部研修への参加や内部研修の取組みの工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の人員配置を優先するため、外部との交流を図る余裕がない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が1番困っていること、不安なこと等、要望を聞き(主に家族)、全職員がカンファレンス等で話し合い、本人が安心して過ごせる環境づくりを目指している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に限らず、問題が出た時点で話し合いをして対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員はまず1番に何が必要かを見極め、カンファレンス等を行い、他のサービスなどを含め必要な支援は何かを見いだすように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている「できることはしていただく」をモットーに残存能力を引き出し活用できるように支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が聞ける範囲で聞き出し、何か問題があれば家族に連絡し本人のために大事なことは何かを家族との絆を大切にし本人を支える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	設問の意味が理解できない。	家族や姉妹、親戚の人、洋裁学校時代の友人、近所の人などの来訪がある。洋裁学校時代の友人はアレンジの花を持って来訪し、利用者は喜んでいる。毎月、郵便局に利用者のちぎり絵の作品を掲示することで、地域の人との交流などの他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用や墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異常な発言が続いたり、口論となりそうなときは直ぐ介護者が中に入り、話題を変えたり、又独り孤立している場合には話しかけたり気分転換に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	していない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族からの情報、本人との日常会話の中から意向や食べたいものを聞き出し職員間で共有している。	入居時の基本情報や看護サマリを生かしている他、日々の関わりの中で利用者一人ひとりに寄り添い、利用者の言葉や表情、性格、好きな食べ物などを職員間で共有して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めて、支援に活かしている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で把握に努めているが時には言いたくない、思い出したくないなどの発言もあり、個々にあった会話に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活状況を把握しながら残存能力の維持に努め、安心できる場所としての認識を持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いはなかなか難しい。 計画作成担当者を中心にカンファレンス等で全職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。	計画作成担当者が中心となってカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。介護記録に毎日、身体状況(バイタル、排泄状況など)を記録し、6ヶ月から1年毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態の変化など必要に応じて、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は日誌に記録している。 申し送り、カンファレンスで問題点を話し合い実践している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんからの突然の要求(帰宅要求等)にできるだけ対応する。 事前に家族との話し合いも進めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物、運動会、お祭り、御大師様り。公民館まつりに参加して、豊で穏やかな生活維持に努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診。医師からのコメントは家族に知らせ、家族からの質問は医師に伝え。適切な医療を支援を受けている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。受診結果は家族へ電話で連絡している。申し送りノートで職員間で共有し、介護日誌に「血液検査結果」等を添付している。緊急時や夜間時は、管理者の指示を受け協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックは職員が行っている。 バイタルチェックの度に管理者に報告している。 また、問題発生時直ちに管理者等に報告。 その後の受診または他の処置は適切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は掛かり付け医との連携で適切に出来ている。 入院後は見舞いを兼ね訪問し、関係作りは適切に出来ている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から話している。 何度もカンファレンスで職員同士話し合い。支援を行っている。	契約時に、重度化した場合や終末期に事業所でできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、再度看取り同意書により確認し、主治医の指導のもと家族と相談し、方針を決めた共有し、入院や移設も含めて家族の希望に応じられるよう職員間で共有して、チームで支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	所内で勉強会。 臨時に訓練等をしている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書、事故報告書に発生原因、対応、改善策等を記録し、管理者が指導内容を書き入れた回覧し、申し送り時に確認、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。誤薬を防ぐために事例を取り上げ、ミーティングノートで共有し、確認している。日常業務の中で管理者が講師となり、緊急時の対応(転倒、感染症)についての一連の処置、対応を学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践力を身につけるように訓練や、ミニカンファレンスを行っている。利用者と共に訓練をしている。但し、介護度が上がり利用者を含めての訓練は難しくなっている。 年に数回月末に災害について勉強会を行うように努めている。	年1回、消防署の協力を得て、昼夜間を想定し、利用者も参加し、地域の消防団の参加を得て、消火避難訓練を行っている。年1回、事業所内で自然災害(台風時)の避難訓練等を行っている。職員へ火災時の対応シミュレーションを行うため、「消防小テスト」を実施し、意識づけを行っている。前代表の時よりの地域との付き合いによる近隣住民との関係づくりが培われている。緊急連絡網に基づいて、地元消防団への協力要請もできる他、2ヶ月に1回の消防団員の来訪があり、防災対策の協力体制を築いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意して、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー確保に努めている。	職員は接遇について学び、管理者が日常の業務の中で指導している。職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録物などの個人情報への取扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者は待つ姿勢を持ち、自己決定できる雰囲気に取り組んでいる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った1日を楽しく。充実感のあるように過ごしていただけるよう努力している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごと、またその日の気温に応じてその人らしい清潔な衣服で過ごされるよう。又、髪の手入れにも気を付けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、食材の下ごしらえ等手伝ってもらい、食べることを楽しみにしてもらうようにしている。 日々の食生活にも季節感を感じてもらえるものを取り入れるよう努力している。	事業所の菜園で収穫した野菜や差し入れの野菜、旬の食材を使って、形状の工夫などをして三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は職員と一緒に、もやしや根切り、茹や豆の皮むきなどできることを一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで話をしながら食べている。職員は、一人ひとりの食事のペースに合わせた介助方法や介助のタイミングで利用者が食事が楽しめるように支援している。誕生日会や雛祭り、クリスマス、正月等の季節の行事食、おやつづくり(ホットケーキなど)など、食事を楽しむことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量をチェックして記録。 不足時は工夫して摂ってもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで口腔ケアをしてもらっている。 独りでできない人には介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で行かれる方は回数が何時もと比べてどうか。 訴えのあった方にはその都度対処。 尿、便意の有無の難しい人は声掛けをするなどして、それぞれに応じた支援をしている。 できるだけトイレで排泄して頂くように心がけている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導、見守りを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が3日位になると何らかの工夫をするようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からと一応決めているが、状況により午前中の対応もする。 シャワー浴、清拭、足浴もしている。 入浴時、できるだけ自分で洗髪、洗身可能の方には見守りで対応しています。	入浴は13時30分から15時の間可能で、利用者の状況や希望に応じて午前中の中の入浴もでき、ゆっくり入浴できるように支援している。 体調に応じて清拭、シャワー浴、部分浴の対応をしている。入浴したくない人には無理強いをしないで、時間変更や言葉かけの工夫をして、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人の日記にファイルして確認している。 薬はその都度、人を変えチェックして手渡している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意とすることや、できることを見つけ、自分がまだ役に立つのだという認識を持ってもらうように努めている。一人一人にできることを毎日。できるだけしてもらうように声掛けをしている。	洗濯物たたみ、洗濯物の居室への収納、カーテンの開閉、野菜の下ごしらえ、テレビ視聴、アロママッサージ、歌を歌う、本や雑誌を読む、習字、誕生日会、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、季節の壁面づくり、おやつづくり、七夕飾りづくり、クリスマスの飾りづくり、かるた、風船バレー、カラオケ、手足体操、嚙下体操など、利用者一人ひとりが活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天の日にはその人の体力を考え屋外へ出ている。 季節毎の移り変わる花、景色を話題にして話しをしている。 お墓参りを希望される方は家族の協力で出かけられるように支援している。	海を見下ろすことのできる事業所内の散歩、玄関前のベンチでの日向ぼっこ、川嶋神社の桜の花見、初詣、神社の秋祭り、みかん狩り、ハートフルクリスマス、郵便局(季節の壁画持参)などの他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、墓参り、歯科の通院、外食など戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心される方には持っていていただいている。 その他は家族の方に管理していただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われれば、電話をしてもらっている。(状態を見て)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、室温にも気を付けた り、季節に応じた対応をしている。 清潔を心がけゆったり地心地よく過ごして いただくよう心がける。	事業所は高台の住宅地にあり、天気の良い 日には海が遠くまで見え、玄関やリビングに は季節の花が飾ってある。対面式の台所から は調理の音や匂いがして、生活感がある。 大きな窓辺は、季節感のある気配りがされ、 ゴーヤのカーテンで強い日射しを遮るよう に配慮している。リビングにはテレビ、机、ソ ファを配置し、畳コーナーではちぎり絵の壁 面画づくりで、利用者が協力して作成する場 となっている。温度、湿度、換気に配慮し、居 心地よく過ごせる空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に居場所が定まり、レクレーションの内容 によっては席を変えてされている。 時には介護者が支援することもある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の筆筒、洋服筆筒。 写真(写真立て)などを飾り工夫している。 家族と自室で、話をしたり、お茶を飲んだり して過ごしてもらえ。	居室は畳仕様とフローリング仕様になっており、 利用者の好みで選んでいる。使いやすい ように工夫し、布団やベッドなど好みの寝具 や鏡台、タンス、衣装ケース、デジタル時計な ど、使い慣れたものや好みのものを持ち込 み、家族の写真や習字の作品などを飾って、 居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、屋内での歩行。 屋外でのシルバーカーの使用。 残存能力を見落とさないようにして、自分 の力をどのように活用してもらうか。 過剰な介護でなく、自立した生活の維持を 支援するように介護者の意識向上への努力 をする。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム あいの家

作成日: 令和 2 年 5 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	評価の意義の理解と活用	職員がこの評価のどこに日々の介護にとって活用できる意義があるのかを考え、活用しようという意識を持つ。	職員がこの評価のどこに日々の介護にとって活用できる意義があるのかを考え、活用しているのかを6ヶ月に1回程度発表、検討等を行いたい。(6月、12月)尚、前年度については出来ていないが、介護の中で同様の事は出来ていると考えても差し支えないと理解	1年間
2	14 (9)	職員を育てる取り組み	全職員を対象にした法人内外の研修について可能な限り受けられるように心がけている。	本人の希望、人員の確保と兼ね合いの為、難しい点もあるが、受けれるようには対応する。	1年間
3	35 (15)	全職員を対象にした応急手当や初期の定期的訓練の実施	全職員を対象にした応急手当や初期の定期的訓練の実施を日々の介護に必要な訓練で、また日々の介護の妨げにならないように配慮して行う。	尚、前年度については出来ていないが、介護の中で同様の事は出来ていると考えても差し支えないと理解している。(6, 12月)[記録に残す]	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。